

オンライン 座談会 講演会

伝統工芸用具・原材料の 持続可能な確保に向けて

～分野・業種を超えた情報共有・交流へ～

【開催趣旨】

文化庁では、伝統工芸の様々な用具・原材料が担い手の減少等によって確保し難くなってきていることから、平成29年から令和元年にかけて、現状調査のための調査や検討を行ってきました。その結果、将来的に用具・原材料を確保していくには、伝統工芸の分野や業種を超えた情報共有・交流が重要であると確認しました。

そこで、伝統工芸の技術や用具・原材料を一般にもわかりやすく紹介しつつ、その確保に関わってきた様々な分野の識者を中心に、持続的確保に向けて関係者の取り組みを促進するための意見交換を行う座談会と講演会を4回シリーズでオンライン開催します。

【開催予定】

- 第1回 座談会「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～
開催：2021年2月10日(水)17:30～19:00
- 第2回 座談会「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～
開催：2021年2月24日(水)18:00～19:30
- 第3回 座談会「森林資源の会」
／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～
開催：2021年3月3日(水)17:30～19:00
- 第4回 講演会(講師)塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授
／withコロナ時代の情報発信・つながり方
～用具・原材料の持続的確保のために～
開催：2021年3月16日(火)17:30～19:00

各回100名 * 各回申し込みが必要です(裏面をご覧ください)

オンライン座談会・講演会

～伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて～

第3回 座談会「森林資源の会」

／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～

開催：2021年3月3日(水)17:30～19:00

(Zoomウェビナーによるオンライン開催)

漆芸に使われる研ぎ炭や刀剣製作に使われる燃料炭、手漉き和紙の原料など、伝統工芸の多くの分野で原材料を森林資源に依存していますが、需要減少に伴う後継者難や資源の枯渇などを背景に、供給不足や入手困難な状況が広がっています。

今回の座談会では、漆芸に使われる研ぎ炭になる二ホンアブラギリや手漉き和紙の原料に使われるノリウツギといった森林資源を探して、演習林等を有する大学と連携しようという取り組み例を現地の映像等を織り交ぜながら紹介。この取り組みが実現するまでの経緯、ポイント、成果等を語り、今後の工芸関係者の取り組みに示唆を提供します。

今回の大学との連携のように、分野を超えて交流し、つながることによって、用具・原材料の確保、眠っていた資源の有効利用が可能になります。その意義について、伝統工芸関係者のみならず、各分野の人々にも訴求するとともに、その取り組みを将来的に持続可能なものとするための情報交換・交流の「場」づくりに向けて、何が必要か、どうしたら役立つものができるか、などを語ります。

【出演者】 高木 健太郎	北海道大学准教授 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション天塩研究林 林長
鴨田 重裕	東京大学大学院 准教授 農学生命科学研究科付属演習林 樹芸研究所 所長
坪内 哲也	刀工(刀工銘:祐忠) 選定保存技術保存団体(木炭製造) 伝統工芸木炭生産技術保存会 代表
藤元 優惠	伝統工芸木炭生産技術保存会事務局・専従伝承者
横井 日奈子	〃

【申込先】 下記URLから入力と送信をお願いします(または、文化庁HP／未来研HPから)
(職場ネット環境でアクセスできないときは、スマホ等を活用ください)

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_V7-vAzUoTcOki2COX9tKig

【申込締切】2021年2月26日(金) 定員(100名)に達した場合、締切以前に締め切りますのでご注意ください。

【お問合せ先】(事務局) 公益財団法人 未来工学研究所
〒135-0033 東京都江東区深川2丁目6-11 富岡橋ビル 4F
(電話:担当直) 090-2317-9499 (代)03-5245-1011
(E-Mail) kougei.online@gmail.com (担当)関、三重野／未来工学研究所

【文化庁】<https://www.bunka.go.jp>

【未来研】<http://www.ifeng.or.jp/news/>

第3回 座談会「森林資源の会」

／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～

出演者

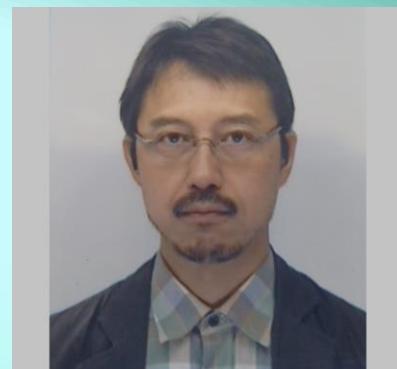
高木 健太郎 北海道大学准教授 北方生物圏フィールド科学センター
森林圏ステーション天塩研究林林長



森林がどのくらい二酸化炭素を吸収していて、炭素を蓄えているのか、人間活動や気候変動がどの程度影響を与えるのかについて、気象観測やリモートセンシング技術を利用して明らかにしています。2009年より日本最北の大学研究林で林長を務めています。2019年度よりノリウツギの持続的な利用についての共同研究を始めています。

鴨田 重裕 東京大学大学院准教授
農学生命科学研究科附属演習林 樹芸研究所所長

東京大学演習林所属。演習林にいると農学は実学であるという気分を常に新たにします。実際に何を提案・提供できるだろうかと考えを巡らせる機会が多くあります。例えば、ユーカリという外来種を活用して日本林業を立て直すことを検討したり、外国産が当たり前のカカオを熱源と組み合わせて国産を夢見たりすることも実学のうちに入っていると思っています。アブラギリやツバキといった油糧植物から、油ばかりか研き炭を得ていたという先人の知恵も、利便性を追求するあまりに捨て去り兼ねない日本社会の危うさを憂うその先に、実際に炭を焼いたり、資源を提供したりする取り組みに関心があります。それらを教育に活用することを大切にしています。



坪内 哲也 刀工(刀工銘:祐忠)
選定保存技術保存団体(木炭製造) 伝統工芸木炭生産技術保存会 代表



刀工を目指すため、別府大学文学部史学科を中退。平成元年美術刀剣類等製作承認を文化庁より受け刀工となる。平成18年より現代刀工の団体「全日本刀匠会」の事務局、現一般社団法人全日本刀匠会事業部の運営を担う。現代刀剣の啓発事業、技術伝承、作刀に必要な松炭の確保事業を同時に行う。平成25年「伝統工芸木炭生産技術保存会」を設立。同26年に国選定保存技術保持団体として認定される。伝統工芸に必要な木炭製造及び原材料である樹木の育成を手掛け、現在では他の伝統工芸に必須な樹木の調査育成も行っている。原材料の確保は、伝統工芸に欠くことの出来ないものであり、刀に限らず、必要な原材料確保を手掛けることが使命と考えている。

藤元 優恵 伝統工芸木炭生産技術保存会
事務局・専従伝承者(写真左)

横井 日奈子 // (写真右)

